

北條五代記

卷七

本子

以通兩
野一卷

御書院



同上



御書院

同上

小隊又代記卷中、七月祿
伊勢新左郎。伊豆相模と後事
後河海もく。お、よき事
小田原隊責の事

京の義者。わい生下ふ事

上物、や節、京虎滅云の事
東海山。奥見絵画と事。付人與の事



小倅又代記卷弟七

○伊勢新左郎伊豆相模と治る事
凡一を荀小倅医巫ム國八列と辭謫せきじやく小かさめ賓
野キテ。國の政道を取カシカヒ民モミテ
治ム赤代主でも目で見ケベトトナヒける。天
運けくよフヤ。天正十八寅の年七月六日医巫ムと
トメ一家一门因八列の諸侯アラビ果ル。だく又
内浦ウシヒテ狩リカシカエんとは内も外も内壳と
内浦ウシヒテ狩リカシカエんとは内も外も内壳と
内浦ウシヒテ狩リカシカエんとは内も外も内壳と

乃ノトメテモトヨム。シテ山城の國より伊丹新左
氏成とシ侍仰。後ハヘ道一。小條早雲店主
ニ改名す。トビ早雲氣効。モ後河國下野。今内
ス即氏親とシ。率人少く。文武智
謀の傍。よし。今内為縁者。モ後早雲
を後河。ち國。モ在城也。モヒ伊豆國。モ高越の
津和と。シテ。小條。よし。由。モ。乞。義教。云。三男。
左兵衛。右衛門。義弘。云。義弘。九成院殿。と号。モ
され。伊豆の國。年々。モ。小条。弓矢。も。あ
り。アリ。總て。小条。連。也。モ。伊豆の國。み。れ
青。アリ。草。宮。ヒ。ト。シ。神。小。ま。い。リ。ハ。代。財
來。ア。ル。ト。人。ね。ト。ア。レ。伊。豆。と。後。河。の。さ。く。ハ。貢。獻
川。と。東。中。よ。ア。レ。小。條。ハ。亂。ヘ。て。散。ひ。後。よ。ハ。不
ト。生。ト。伊。豆。の。國。と。切。く。れ。ト。わ。す。の。く。云。つ。く。る。
物。又。或。充。土。治。り。ク。草。宮。の。今。内。と。府。中。み
一。而。ト。ア。ラ。バ。清。水。浦。ト。モ。每。日。く。酒。海。ト。伊。豆。と
切。て。れ。ト。物。治。モ。リ。見。ハ。無。税。ナ。リ。モ。ト。モ。も。ア。リ。
ゆ。モ。充。土。治。て。ア。リ。草。宮。病。氣。ト。ナ。ド。モ。伊。豆
ア。リ。伊。豆。の。國。モ。三。郡。山。國。モ。東。西。ヘ。一。日。あ。シ。

往日の行程。奥の海中へ出焉國とれり。関東宋
朝へも亂國ともした伊豆へ出事。よもやま。一郡と
十人せん免をあゆ。やくのやたの島地とより也。
放儀風俗。徳百壁たりかばく。おとこそもう大船す
一人をかきうしにぎよやスを早雲斎中。ゆ
里民親よ縁くき事。年來舟役せよせら。要事と
して勇士と二百人。又。山加
勝をとそひ。伊豆の國とそやまとく切て。又。さ
計策をとひ。されど。民親よて早雲寺
謀害。鳴のひざと感。勇士とえひ。三百人加

勝也。早雲寺をもんねと兵役。流し。江清浦
ふくのて大船十艘。目と。船合。又。百人の勇士。み
下知。して。いもく。それ令教の勝負。大勝。小勝。ふく
し。も。と。士卒。力ふざ。と。つよもろと。せざると。也。
は。余の兵士。北國。ふ。日。と。ひ。く。る。う。の。海。沙。と。沙。う。也。
陽。よ。と。ひ。じ。く。沙。み。キ。ひ。り。と。ひ。う。の。海。沙。と。沙。う。也。
ひ。よ。と。ひ。じ。く。沙。み。キ。ひ。り。と。ひ。う。の。海。沙。と。沙。う。也。
タ。く。と。ひ。じ。く。沙。み。キ。ひ。り。と。ひ。う。の。海。沙。と。沙。う。也。
智。互。と。ひ。と。と。と。一。方。と。戰。ひ。と。交。一。方。と。勝。

永々世レてあらんと。弓矢氣力のせに懐かれ。頗
勇士ヨリの才アリてとよへ。晩に勇の三つの漁とよひ死
とる。名メシるよまわり。既セラとがくともとて、義と
さりげな徳平軍旅セラとがくすうとて、公恩
貢の急切セラとく。Pもあれさまへ。どりく、
ナカルて、義と合意セラとまがく。帝ミサマと一薙
も重アリ。御ミサマ宿ミサマとよさんととて、延暦年中清氷
浦ミサマ大船十艘ミサマ。又百人。又索縋ミサマとて、帆風
コ帆ミサマとわを。ゆがの。日中よ伊豆の國
松嶽ミサマ西素ミサマ。又。ゆゑきの陵ミサマ。急進ミサマと。びまた
もと。もと。甲曹ミサマと革し。ぬき。瀕ミサマを在す。のとの
先見ミサマと。とく。御ミサマ敵海賊ミサマ外ミサマを。と。御ミサマ沙まさ
と。さ。親ミサマを。とて。づと。す。殺ミサマ先ミサマよと山巒谷底ミサマ
そ。か。入ミサマを。又。百人。又。あまく。だ。わ。ぎ。ま。さ。く。
う。も。な。く。む。り。い。く。小。舟。の。具。と。陸。へ。わ。き。若
さ。ま。は。か。と。う。け。と。お。よ。へ。え。ニ。ケ。衆。の。も。れ
を。立。る。

禁制

一 もと家ミサマへ。諸道具ミサマふと。とか。麻事ミサマ

一 漢ミサマよ。幽ミサマか。何ミサマく。む。和ミサマ事ミサマ

一伊豆國中の侍并其民より身を住むと云う
 右隣く墨停らせり。早朝遅晩の聲をもあ
 ありとて、之へ在來と放火とべき者也。内撫室
 領のふくと右の二ヶ所とも立草す。ね
 村里のわき家と見ゆ。ある家とも又人入る。
 痛苦つて、わきよ千人とも餘つべ。毛へつら
 キもあれば、ばは風病もやう。後人三百七日づ前後
 もりまよど。家よ千人よづひ。ハルハ死ひ歎海誠。
 織の事よれ。我おうづみ。比觀ひよそへ。子へ觀と
 そく。がくよそへ。毛へつら
 便の汝身が。孟子によ大人へも赤子のふと。うみへづ
 者とて。がくよ。孟子の事小過つても。うじづふ
 かくよせ。やくふ。情ハ人のあらう。ビ。れとお
 捻。それあえり。かくば。病人みず死べ。生へき者と
 ぞ。教と。者と。教と。と。と。仁政のわとせ
 ひ。昌が醫術よ。從て。良薬と調合し。又盲人の目を
 打散て。看病。薬と身しぬ物の。食事と。と。医
 や。療養よ。ひて。人を死せ。と。又日三日の中よ
 皆。復し。余助も。まも。山。の。世よ。の。報
 ト。報が。ア。と。うち。ひ。者た。い。そ。山。處。よ。へ

て。子ハ親ニ語リ。豈やハ子トモアセ。がよびて。うち
い甲と。急急。ば。わき。鬼神の御事より。くれ
た。がふへ。あう。く。急急。悲辱の生佛。もく。我。もく。
余と。助。ひひ。そ。や。あ。さ。山と。もく。親の余。そ。
余。助。り。そ。れ。上。路。と。へ。皆。山。峯。と。走。
我。底。り。ゆ。す。乃。び。下。り。先。と。や。う。つ。て。又。里。
十里。宣。方。の。者。皆。や。と。ぐ。と。來。く。先。は。そ。ん。ド。や。
も。の。下。し。是。ハ。山。守。先。を。の。肝。煎。な。ど。
べ。じ。と。不。安。の。や。く。相。處。ま。げ。う。ど。と。お。判。
と。出。と。早。雲。病。者。ゆ。二。七。月。滞。留。も。も。り。よ。三。十。

里。と。通。ハ。皆。味。方。よ。と。を。歸。ド。タ。リ。寧。ト。よ。闇。
東。乃。二。十。里。山。の。が。深。根。く。え。而。ア。闇。戸。懸。ア。
守。吉。佐。と。ソ。者。わ。り。是。ハ。あ。人。中。の。ゆ。り。と。云。
は。づ。る。若。も。さ。人。也。味。方。ゆ。か。あ。レ。ビ。わ。も。い。さ。
右。敵。と。立。ひ。の。勝。り。内。二。百。と。外。一。段。の。往。た。
わ。よ。も。ま。て。難。共。又。首。を。そ。ー。と。告。來。る。早。雲。
ゆ。て。神。ぞ。よ。き。い。つ。ひ。か。幽。圍。へ。發。向。と。と。
ど。じ。び。の。歌。あ。り。れ。、ね。う。び。、く。れ。ひ。け。よ。
ち。え。き。と。ほ。ろ。り。軍。神。の。血。も。り。や。と。せ。ん。と。
鶴。鳴。り。ひ。を。不。と。打。無。」。う。の。山。と。越。日。守。

よ深根さかねへとせよ。アリ。極きわ又義いうのものとす。ひを
もせゆく。旌しやう下しやうに付つり。味方みがたの勢せい二千余
勝かつ。うち。び敵ひちか。山さん。東とう。あら、ひまゆる。多おか
し。西にし一方かた小こ勝かつ。と。けり。屏はさうを本もとと。引ひせ。門門矢や
益ますと。立たて。多多くと。ち。と。ぞ。そ。め。ま。早はや雲くも毛けを
え。と。わ。う。ま。を。家いえと。百家ひゃくげ計けい引ひ。一千せんの
人ひと。ざ。き。あ。れ。わ。あ。て。勝かつと。う。の。即そく。吹ふき。よ。平ひら地ぢと
ある。と。死死も。わ。く。せ。ど。負ふ。へ。ま。り。傷いた。も。ハ。衰しお。を
い。き。り。衰しお。と。せ。ん。ど。そ。そ。う。い。き。力ちから。と。切きて。ま
あ。と。と。た。又。百ひゃく人ひと。ひ。ぎ。と。つ。ゆ。て。負ふ。く。れ。が。

繼つづ。子こ孫まご。万まん強きょう。く。う。ぎ。の。精せい。と。ほ。そ。と。そ。を。く。と。云。な
か。す。よ。べ。ト。と。ほ。り。と。も。勝かつ。虜りよ。父ちち。子こ。又また。旌しやう下しやう
ゆ。く。か。れ。が。筑つき。者もの。敗ひ軍ぐん。一いつ。あ。く。と。と
た。と。よ。と。ま。り。城じやう。よ。龜かめ。弓ゆみ。者もの。と。と。安やす。
え。べ。將しょう。ま。で。も。一いつ。人ひと。ぬ。き。も。首くび。と。切き。城じやう。め。ぐ。り
お。千せん余よ。ひ。と。と。る。れ。き。ハ。先さき。と。見み。や。一いつ。も。龜かめ
中なかの。備そなへ。侍しやく。じ。威い。よ。と。と。れ。鳥とり。が。と。と。來く。て。海うみ
人ひと。と。か。う。居ゐ。か。う。伊豆いづ。一いつ。國くに。ハ。早はや雲くもの。國くにと
か。う。事こと。武ぶ勝かつ。世よ。と。と。く。キ。テ。モ。名な。わ。仁じん義ぎ。と。う

照也敵うべく。わやうじと助を駆難と敵
ワシとと敵圓へ來るよのとも病者。千余
人を助を猪人のふとちりあらも是に仁の
わたり。極又義者と云ひ力事と云ひ切て。
死とべき事と死とも義也。敵と限らか
圓と後も歎の為也。臣人の制調つゝも。理
み角りまくらうと明る教方の敵と云ひと
之と云ひ。がくはるふあくも。教とキテ理
わし。能あき者一人。波とととつよこも。仁乃
ふわすととつり。御早雲翌日。伊豆の

小條小村詔ひ。び不レア小條財政居住と。在
所の者アタレ。算をすて。赤右衛義。軒銀。
平治の年。ひひふ小條蛭がふ。傳へたが。サ一年
の早雲。とし。とく。西郎内改と。さ
ら。治承四年八月十七日。伊豆の國の日代。糸聚
判友道隆と。金牧が鍛。そ。和村。義兵と。あ
か。も。一。お。お。例。ア。リ。と。く。び。旧。糸。と。年。與。と
て。早。雲。居。敵。一。後。が。皆。人。小。條。蛭。と。と。早
雲。と。と。小。條。家。と。と。て。と。と。さ。地。せ。され。び。名
と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。

家とほん死をすもて。三鷦大明神よりま範也。
和トテキテ莫要ト。不ふ歎のつて。もとや。ね又
大松二千をうちと。角一つ牛く管わづらこにて
見りば。莫とく。かくよめひもへ。是に因で。さ
ゆ美。多かり。岡東奥川。もとの國。と。上松を
上壁相摸。又國。よき。ぬと。び二かの上松。と。薄
退治。えべーと。下され。草。を。故。後。し。も。び
あ。上松。と。ほり。が。うん。と。畫。を。思。量。と。り。ぐ。す。も
こ。よ。た。上松。多。相摸。が。益。下。總。京。陸。下。總。
上壁。越。後。佐。波。羽。奥。川。も。そ。も。と。く。多。病。
今。知。よ。浮。の。絶。す。よ。お。上。松。負。運。の。未。り。や。扇。谷。候。
望。奉。之。宣。ひ。乃。家。老。と。尾。兄。者。の。中。り。辨。精。業。
主。上。毛。尾。左。兼。門。射。子。息。官。郎。右。兼。門。射。謀。教。」
わ。もの。と。と。上。松。の。中。わ。く。成。て。ち。夫。礼。や。む
事。な。早。雪。び。ゆ。と。す。禮。臣。國。と。氣。も。と。る。
古。の。言。義。是。也。お。上。松。は。よ。べ。る。前。年。ち。り。ぬ。と。之。取
き。よ。か。若。根。足。柄。山。と。越。小。田。原。の。城。と。行
き。よ。か。明。應。の。山。か。い。せ。ば。勢。り。と。年。相。摸。半
國。切。れ。と。後。宣。ひ。病。死。民。ア。委。改。宣。も。滅
亡。早。雪。永。十。又。年。八。月。十一。日。三。浦。介。道。す

居城三浦の新井の城とせり。と早雲子息民
總代よりの奉公義典と上牧朝興子息朝定
父子と付ひ。武總代國へひととす。民康時代。
豆相良總代ケ國の人ねゆく。上牧朝定政教万勝と。

年々くまくま。ねゆく。勝利とえ。天文十四
丙午年の大合戦。民康もろひて。憲政と連
討。閑八列を治め。文武智謀せうま。れ
うち猛強の大やう。民康、いそ。龜のくびと
じ。毛うく。功のう。ひと。毛うく。もろふ。お
う。と年諸の力命令とす。骨と重し

教子の忠功。桂金と應ト。國都をゆき。とへ
され。法。行。拂ひ。眉とひ。名。參と閑八列よ
わき。子孫。昌万歳と。とひ。民政。民運
又代。粹。治。よ。國と。治め。ひ。が。小。障。家。民。運
とも。よ。ナ。り。寄。旅。宿。や。く。が。い。づ。天。心。ゆ。も

宵。佛。神。も。と。く。詔。ふ。る。や。天。正。十八。寅。の
年。民。運。代。よ。と。く。が。う。ひ。な。と。信。る。早。雲。乃
合。義。是。ハ。美。流。ナ。リ。と。づ。た。ば。猶。信。の。豊。号。是。

の。猿。河。海。そ。船。軍。の。事。

又一寺者。少々條氏。至と。武田勝賴。翁ひの時。
 疾河の内。ある圓寺。と二教院。勝賴の城也。泉也。
 も久保戸。倉志師。湊。ひにケ城。疾河の國中。
 里とへた。元年。今川義元。時代。少條氏。繆切
 て。え。も。以來。氏直。國とす。義元。信玄。内
 代。疾河。伏。と。を。三。遣。假。御ん。と。か。と。づ
 こ。も。近。サ。よ。時。も。し。極。又。沼津。の。浦。は。さ。も。要。
 崎下。志師。湊。志義。浦。久能。口。暨。ひ。お。の。浦。里
 を。疾河。於。氏直。也。志師。湊。よ。大。石。越。後。守
 在。城。と。び。城。の。後。よ。よ。ど。と。云。ち。山。わ。り。猪。松
 疾河へ出陣。の。時。範。ち。巢。山。よ。物。の。義。正。も。
 人。も。と。住。浮。湯。る。が。原。と。見。渡。せ。ハ。猪。松。の。陣。湯
 ウ。様。子。自。の。下。ふ。ひ。少。れ。う。み。と。
 小。氏。直。兵。私。け。と。く。べ。き。湊。を。紀。ゆ。伊。豆。重。源
 の。湊。と。共。私。も。と。ぐ。く。き。を。な。く。沼。津。より。二。里
 る。よ。て。り。み。梶。原。海。あ。ら。子。息。共。神。奉。立。や。ら。よ
 し。清。水。越。あ。る。島。と。左。奈。新。村。山。角。沼。神。か。神。本
 ト。三。江。左。東。門。村。山。か。伝。法。ち。る。云。私。大。ぬ。ば。重
 次。浦。少。居。住。ヒ。氏。直。伊。豆。の。國。よ。と。と。く。軍。本
 と。十。艘。化。り。發。じ。る。乞。と。わ。け。と。名。號。くる。が

三月

ふ。櫓三千五。あ方合五百十丁立の兵船を差すひ
さりまさぐるは洋炮も千五百門前より板と立すより是
れ程よ。ひとの東板と立て。兵の左右龍船と立すより是
トふ水より千人上の夫金より侍者十人をもく。矢
さ風より弓洋炮それつねよ。射りそま。神西くさは
大旗砲と仕付とだす。御よ天へ八年のま。揚帆
後河より陣も。民車も伊豆の國へ出馬。二橋よ
ももと三きそもひる。重慶の兵船後河、海へ勧と
なすべき。民車下氣よ付く。毎日後河海へ来
せし。揚帆旗が。海鷗が。宋消勢の沿岸よりの松
原も。もと守地のナ紀アキく。島の上海。さへ進
陣れ御よ十艘の兵よ。けぞ紀多。大旗砲と
ケリ。く。歌船。うべども。もどく。進都。し。る。く
まち。兵船地のゆり。えくまち。ね又。歌の諸舟。渡來
て。かと。陣上。も中。よ。まく。洋炮と。敵百挺。行。と。ふ
兵と。船。よ。十艘の兵。汀と。ほ。い。漕。り。達。と。お
この洋炮。よ。の。敵のや。と。舟。よ。め。と。た。敵
の。用意。板道。こ。と。も。す。か。歌船。ハ。清。水。の。み。す。
ふ。り。と。こ。と。お。た。小。船。よ。達。よ。當。の。日。萬。年
も。伊。豆。ハ。海。と。板。道。ト。揚。帆。下。氣。と。と。三。月

十五日の夜、まよひめどうふ敵舟三艘重次の凌を
本と。対砲とそれつては敵舟こそ本りんれども。
と身と敵舟ハ櫓二十下三身く小舟ナリば身を
きしりす。沿津らへもへじて勝船の陣場
浮湯うねりと漕りすよ。又沿津川入り舟二艘出
し。合々艘よぬる。流馬とよけで漕行と十艘の
舟としる。ばくと漕の舟冲へこびゆく又浮湯
うねりと漕湯。勝船の舟軍先船とて渡り
下り。旗馬も下りてそりの諸船に打か酒
水の中。腰がりふへて立ち対砲とよみつ十艘の
舟あらままで。待立していとく。敵舟清水源津へと進
ゆ。どく勝船の旗や浮湯が舟の本海よみる事。
勝船下りて。舟へくさ見れとかれまわ。とて
東方の舟二艘の濱毛の前後よもく。八艘の舟へ
沖より敵船をれまつ。船らんと奮闘とりくとヒ
ヒとも小舟やとよられ。ほどひつきがく。廣瀬
中よ。義とみとひめぐ。勝船と艦の舟たよ
ごくとよく。まよひめくとよあまよ
馬さ。甲雷やとくとよくとよ。統轄
軍連よゆり落ひ。日も暮れき。十艘の舟伴豆

る。渤海も或も大勢の先陣を發し
を逐ふ。まことに車の勝負の運によること
あれ。貧乏と云ふも心よりもど。また引手。此
而引。くゆ。さすがにかと大物の不覚とすり。
武略。奇縁の武士の名譽もとあらず。文武の達者
引よみの勇士となつて。御敵小私そ大私
あり。ひよきわども柄よどどともあらざる事
あく。筈の益われ。相接へ内と縛り合ひ。往
立方と引ひ世の外。ひせ。ひよく縛り。後
日。ゆきかとりて。諸軍といふを。すりと蓋

かた。兵軍見物と云ふと却て恥辱と扱ふ。大勢喪
生の不覺と云ふ。あきばは傳が原田子の浦
を。がて。よとからぬ。海の汽舟うちじ。ふよ。今
多く極とぞ。奇。やもすとよまし。もひへじ。ふ
うり。ぬづな。軍。兵ねく。うじ。舟よ。火炮の業
の煙をよとと。國も矢さう。がるものと云
じ。すなく。絶羅のちも。こなれず。いめ。人鷹の
長め。東風行脚せ。海道経済の紀。よ。田子の
漸よ。あて。當士のち。度と。打か。うく。云。貞観十
七年冬。その。白衣の義女二人。わたりて。山の下。まきよ

なしがかのトトクが、爰の山紀よ。まやまやひうから
ゆきとおづるす。

爰士の根乃風よまくよし雲のあまにし女が
袖ひとそり。とようり浦鷗が原をかくらむも
とぐれくみや。かへ爰士の簾そ。東西へとくぐと
す。江沿り。布とひなつがゆく。山のみどり陰と
りく。をも水もひだり。芦苑小舟雪よ竿
うて。群をもろもろ。おひくさゆ本をうる。あへ海の、も
て。まくとひこまれて。雪の波うちの波。とく
さ泳たり。とく疏鷗の鳥羽よをつまつわ。わづ
ふ。を疏のをよけず。されふとのぞひ。をくさゆ
乃眺望。沈思をとり。ふ心がそ。家よはが
心の夕づり。辛く立り立ちて。浦風松の梢ア
ひせふ。ば家首。海のよすうび。遠葉の三の鷗
の。とくよをくちよよりて。浦鷗と名付たり。ま
やみもよづ。神仙の栖よりやわらん。アとく
むくゆーくわら

歌ひ。浦のへよ爰士の根の。櫻も雲を
浮湯り原と詠せり。原とば原よげどえで。
みやの松原と云ふ。海の渚をすと。松も

かよ生りてみどりの法さへもかり。跡に
おたりちがひて。木の葉のうちうねよしらぬふ
株の松のや。雙峯の寺。一葉の木の中の万里
の力と化す。ほむ毛もとづきじ。眺らむが
くやもとぞれぞり。
又、きせはすと松の意をも。みどり
みはぐく源のう。那と長めよめり。ほむ木の松
ゑ。勝利時代。海賊のためのさわりとて。切捨だ。
とうもろそぞり。ありとくる。
○小田原城攻の事

凡てき者。井戸白秀吉云。関東小隊兵並返済と
も。天正十八年の暮。西國勢と引率し。東國へ
發向。後ふ。兵主は賊よをそれ。關八州の軍
兵小田原よ。鎌倉と。敵ひのりよ。事く。敵とぞり
けむ。盡和とつも。攻ねとく。されば。敵中郭
外堅固。よろしく。爲へきて。こそかく。ひ敵東西
を六十町。あゆ七十町。めぐりみ里の大城也。並
がよまへ。既とほり。土井石垣の上。せ、う。矢
金。ところもなし。その角。よ。は。敵まと立
き。自強の天正。か。而。さ。おとく。ふ。大。め。お

家のものとどかひ。馬を下りて兵船を出立す。
小毛て丸よりひらぐへとすそりへ。吉野監立の
紀に來るやまとんがまへ後努力もどり。
往還の路。橋三十間前もくく。兵者の立所
せどもうど。陣並へり。うち小道とおり。人數去
ぐれ事。縮麻竹藺のよし。車ははとよ舞と
焼。そと白日よきとなくとも。諸君千文を枕
さう。甲冑とそよひと。後方の者たる弓鉄
炮と。どじんもかくもかく。よつて敵をそく立
すり。松又和敵を困らして。旗齊布。六

百人甲冑と常し。引後炮をとよと。お歩行
あく。晝七つ四分。城の太もも門を集て。射を
あく。三百人。二千人。前方へきて。木もも。弓
矢撫と。うぐ。わらの太め。軍毒よ敵を圍の。箭上
歩向て。射面。一。れ義。よろひ。相又。晝八百人。氣。又
方へきて。もの。と。敵を圍。医巫ふ言と。うぐ
軍毒よ敵を中よ。ゆく。ゆきのわらと。せむと
ゆく。ゆく。他のおなじり。一人も加勢とべ。うじ。若へ
取。堅圓の者。計。笑をくら。あぐ。決まのわら
を。ねれ川。あぐて。と。敵を敵乱と。うじ。

書、新口の役人計。まへぬよ大渡船。手引とす。
モナラベ。と外の者たゞ義城退居方記載。
わりひくものか。まはべーと。もよふ
て書。墓内墓双六と打てあそぶ。而しめり。酒
宴遊席とすともあり。福と、りよて朋友。教
あつゝ氣味とすと。しもやう。筋骨と。そと。きう
と。も。あらがする。も。わらう。筋骨と。櫻あし。
軋轔。と。與。よろ。渾。す。わらう。筋骨一生涯。と。送る
こも。の。て。通。の。軋轔。と。ね。又。松。木。大。明
神。の。ま。の。よ。八。町。十。町。ア。ど。毎。日。立。て。七

度。の。棚。と。ま。ま。手。力。と。る。物。を。買。取。賣。と。首
力。賣。物。よ。子。の。更。物。を。く。群。集。と。民。至。云
られ。と。立。既。じ。ひ。あ。民。幽。年。中。計。の。群。集
支。付。ま。べ。ト。わ。す。る。而。あ。れ。き。よ。と。そ。の。市
め。く。賣。べ。ト。身。ま。ま。小。如。く。民。百。姓。よ。ま
ひ。下。下。下。下。下。下。下。二。年。ま
の。ま。度。の。公。縣。販。よ。い。く。身。と。と。だ。と。ま
ま。ら。る。そ。の。公。縣。販。よ。い。く。身。と。と。だ。と。ま
ま。事。な。く。何。よ。付。く。も。な。が。ん。が。す。い

ナリ。續又久ノ今アリ人云々ナシ。即日敵聞入
の者多。敵陣の様子を語り云々。相川草縄力
敵自小隊左東門に至る。諸人と如く。卯月廿一日。
秀吉之出はとくと。武川岩付。木田十郎
氏房居敵。家先太田伍中守伊奈与共射討。文
敵義絶守。より凌駕。豈ほ。木村常陸守大野
とて。又月廿一日。齋藤為忠。上列。松井田の城。
大道寺後河。ち。義。羽柴。流石。尾高平
次。葛田。木田。均合三万余跨。あくせり。大野ち
諸人。ごく。山城。と。武川八王寺。小隊。陸奥
民賊拒敵。長臣守暨一庵。操地与三郎。と。有翁
あり。後。源氏。半田中務。鳥井。左馬門尉。大
内。那。半。と。源氏。半。暨。一。庵。操。地。与。三。郎。と。有。翁。
軍。兵。守。暨。一。庵。操。地。与。三。郎。と。有。翁。
と。上。川。忠。ハ。敵。田。下。總。守。氏。兵。居。敵。自。小。田。重。
名。木。國。名。木。重。『府。』。と。り。石。田。治。ア。少。浦。大。野。
ト。御。真。別。力。士。卒。弛。く。り。り。く。万。余。跨。と。
畫。取。す。紀。も。か。く。養。く。と。よ。と。と。左。雲。國。み
て。あ。べ。さ。て。ぶ。と。か。『序。』。水。せ。の。ち。ま。ま。と。が。

とこや。豆州より出でて、小隊義義波ち民親た
て、うる。妙方務あく。書かどりも。重なるとく
ども雲國なり。と外國東諸城。大船商帆とす
えたり。必ず小田原也がトヘ賣するの人物の類とす。
後陣山登る。す士地のと見戸す。巖と登
里。客と下りて。軍勢充満する事。と限り。
されば、是きの如ひに爲り。ものゝをのも。
十二時半。めやじ事ナ。六船未運送とる
事。西海の大船小舟幾千艘。大教もとど。見れ
小津中ゆき。東西あり。小舟とやり。大名
旅陣。うまよ。廣太なる御形化り。書院枚あ
ひと立。夜よ松竹草紙と極まで又津。御舟の
は蟹身は蟹葉のあく。沉船子大角豆す。極
至町人。小舟とけり。諸國の津く浦くの名物を
ねあく。賣買市とがと。或ひ見世棚とす。唐
糸の麻の珍れ。糸拂乃綿布とす。ふもわり。或ひ又
糸の麻の珍れ。糸拂乃綿布とす。ふもわり。或ひ又
糸の麻をうけとせえり。さうり。と外海乃の
さうり。糸麻もとじや。とく。津中もとじ

き事か。こつよ後も歎憇^{てきせき}しも城中もがくの
じとさんば。数年とあるとも。双方^{さうがた}退屈^{たいく}の氣も
あべても。やとくあわの。武運の尊^{そん}高^{たか}いよ。
る。天命とまり。ナシ也。と。皆ノソラニ。を。云
ク。國^{くに}の軍勢今。そと。す。千里の運
輸^ゆ。と。きて。け。べ。も。民運^{みんうん}天下と。引^ひき。くわ
き。事と。と。ゆ。て。か。ん。ぐ。り。が。代^{だい}。事^{こと}の大敵^{おだ}
と。眞^まト。國八州の軍勢と。説^{せつ}と。も。も。う。て。運
を。ひ。か。ん。事と。し。ひ。く。跡^{あと}。経^へ。ハ。齒^は。誠^{まことに}矢
本^{ほん}の。あ。國八州の。法^{ほう}。悔^{くち}。が。う。よ。と。め。う。と。惡^お

風吹木^{かき}と。爲^な系^くと。と。す。木^きの根深^{ふか}さう。な
を。そ。ね。繋^{つな}は。無^むく。生^うと。べ。か。と。ん。ど。我秀吉^{がく}
と。兵^{ひょう}直^{じゆ}。と。庵^{あん}。と。あ。の。洋^{ひろ}。指^{さし}。終^{しゆ}の。毛^け惡^お。と。ん。と
あ。の。兵^{ひょう}直^{じゆ}。庵^{あん}。と。義^ぎと。す。わ。秀^{ひで}秀^{ひで}吉^{よし}
疏^{さく}よ。毛^け。而^かて。義^ぎよ。情^{じよう}。う。毛^け。も。し。い。く。ふ。こ。つ。す。り。
教^{きょう}陣^{じん}の。洋^{ひろ}。疏^{さく}よ。そ。じ。さ。て。庵^{あん}。よ。毛^け。が。毛^け。と
え。が。毛^け。東^{ひが}よ。毛^け。歌^{うた}。よ。西^{にし}よ。毛^け。歌^{うた}。と。げ。下^{くだ}。と。う。り。
御^ごも。ま。東^{ひが}。と。ほ。う。さ。ど。る。民^{みん}。東^{ひが}。よ。向^{むか}。て。あ。若^わ
す。も。が。も。事^{こと}。と。う。と。う。大。お。お。

文武の二方とすみび。軍陣小刻くい疏麿支子
をうんぐ。奥鱗鷦鷯翼。與よねどきり。兵氣とおと
ひじと與じ。敵り。敵方よ。惡きも。ふもる
ちと敵と西方よ。すらやうよ。海とくる。秀吉
かのとさの軍法と。あらゆ。西
流の力よ。れひと與じ。居城と。妙く善よ
日月よ。而て。うと引。とそし。事と。知よ
佛神の眞面。小され。天命よ。宵。そりよ
えひとまひく。前幕也。秀吉云。民。わざと。影
ひて。文乃と。知路。うがゆ。也。運よ。寄。て。一旦

天下と。争。と。した。文乃かくへ治世。ノト。かじ。ば。交
日が國の武士。のうち。わひ。敵の中。ゆ。軍法。兵術
を。か。放。美の。ゆ。か。く。べ。く。の。ゆ。と。紀の。ゆ。と。
ひと。大人。へ。根。と。多く。と。て。こ。め。と。ば。人。へ。能。と。そ
そ。れて。ふ。と。ど。た。との。賢。人。が。り。た。ぞ。く。く。ま。じ
ふ。よ。と。く。く。あ。への。賢。人。ひ。千。う。ぐ。と。く。の。せ。内
か。よ。わ。ひ。り。べ。と。さ。り。ぬ。と。い。ほ。り。な。れ。ま。ね
ま。の。君。の。傍。人。と。も。と。賢。人。へ。走。あ。く。勝。記
よ。義。士。い。不。仁。有。の。あ。よ。死。せ。と。と。う。く。秀。吉。云
ふ。貴。の。訴。械。と。與。と。敵。敵。の。わ。ざ。う。り。と。す。

後代の形と改り。豈り孟子によ天の兩の地の
利よも。地の利。人の和よも。と云々。龜
の言ふ。人の心よわり。龜山もく山を
ほり。其根葉もとくつて。士卒の心和せざれま
さむ事也。龜は龜も。圓八列の武士ハ又
代小隊家よけひり。思と感。道と志す。而
臣一肩も。變せ。ビ。君臣合戦の勇士。ミ上義
城堅固よろしく。地の利をもろ。一つとて
者事事ふ。行んどり。事か。と云々。されば皆
人やく。敬意とされろ。も士のわざ。たのじ

きがと國トカ。アガリ。かくて。城中堅固よろしくて。敵
せじべき兵。亦。もたさ。後勢百余ヶ日。力長津
み氣。を吹ふ。あまられ。畢く。かと。し。所。秀吉云
と。り。武略の大。お。キ。と。う。ど。て。傍。う。を
う。じ。和平の。計。策。り。ゆ。も。也。民主。全。身。大。富
十郎。民房。ハ。多。勢。れ。井。細。田。ア。リ。久。難。す。て。貢。八
十石。の。お。は。じ。面。せ。り。も。敵。ハ。羽。柴。ト。總。守。迎。ば。并
畠。ア。リ。れ。あ。て。わ。う。い。と。そ。や。す。し。う。そ。そ。又
島。別。龜。山。ア。城。よ。ハ。小。隊。參。農。守。民。就。第。翁。翁。ア
せ。め。底。胸。深。ま。在。門。本。業。農。民。ア。ク。肺。峰。次。底。翁。

附录。乃知雍永以爲難。且豈祖馬也。伊獲也。而之先
于初合。至勝。又方余焉。三月廿九日午。約
乎。予。七月。至。又。月。晝。也。于。既。子。
責。之。又。縣。治。洪。炮。矣。之。之。之。之。之。
勤。之。嗚。也。之。事。也。精。之。之。之。之。
變。之。之。之。之。之。之。之。之。之。
と。引。之。之。之。之。之。之。之。之。
久。が。せ。ら。也。成。之。之。之。之。之。
代。之。之。上。海。之。之。之。之。之。
志。之。之。之。之。之。之。之。之。
乃。諸。縣。皆。之。之。之。之。之。
堅。固。之。之。之。之。之。之。
兵。勇。之。之。之。之。之。之。
兵。勇。之。之。之。之。之。之。
方。是。之。之。之。之。之。之。
方。是。之。之。之。之。之。之。
小。田。原。之。之。之。之。之。之。
親。龜。山。之。之。之。之。之。之。
之。之。之。之。之。之。之。之。
之。之。之。之。之。之。之。之。
之。之。之。之。之。之。之。之。
之。之。之。之。之。之。之。之。

小ままでひがひの事とて民盜廢絶せらるべをす。
ひさう相をそびえども上をさげひよ院へと
れう。兩目とぬさじ。ぬらきを首。秀吉云
乃浅文と清経。民盜七月六日野の刻。漏え口よ
りよぶ田多へ民盜ハは敷とあくど。毛の謀計
ふおとされ十郎おと井細田口トリ。民盜七月
六日知別山城也。七月同刻お出へ。遂に
もる事。全私の義ふりも。毛のとて天の
かたに運びてさんば故老城中めぐらしく。所居
せし孤庵を手とりびづる事。寄りとつまう

ふがひをと軍法參署。大内の陣よあひて氣
味のとてふたり。運びうる内を思ひよれり。
すくて安達の東へ。かく他人を犯と痛どく
かきどもか笑。室よりのわからんり
○京の藝者。わいまくふ事
安達を育。永祿の江戸西諸國亂をさう矣
多く人のふきがりかくも。後よ三好徳理亮
京都ふとて謀叛とてて。同八年八月
十九日お車轂禪とてり。天下と私
達歟とてり。とくに尾羽織田信玄軍共

前編
同十一年 都へ賣上り。三好隆慶を
子息左京とまと遣付。猛烈とす。ひ。法國を
かびるとす。明智日向守秀忠。天正十年
八月二日。京初よどて。まも信長。信定。父
さとゆき。義光とす。ふ羽柴義親。かち秀吉。
もせ外く。八月十三日。秀秀と深四封し。又芝田
院理亮勝家と合戦し。勝家と浪死。系乱
者もある。かく年々。く治世す。も。関西を
浪羅のらきとされ。かは。は信も。秀吉。在
世のひまで。石とうる。義著も。事や。住うかり。

タん東のかよ。栖りと先んごく。強す。うちやく
ぬよ。あさす。下。よ。タク。あ。あらう人を。みれ
を。ぬ。ごひ。沙。ゆ。わ。う。近。柳。よ。あ。そ。海。や。か
の。こう。う。を。伝。潔。か。う。潔。ら。の。だ。け。よ。う。潔
き。を。人の。見。や。さ。が。り。な。打。が。く。ら。と。く。が
そ。く。一。て。み。の。と。う。り。と。や。か。げ。く。ん。じ。う
か。ら。わ。と。冬。河。か。る。ハ。の。移。と。ば。け。と。死。て。暮
す。う。ね。と。暮。り。る。や。だ。と。行。め。い。ま。に。ひ。あ
か。び。と。後。河。か。る。寒。戸。の。そ。ら。い。井。く。ひ。く
ま。ま。よ。激。れ。と。あ。れ。す。り。家。よ。あ。き。ば

多義のうちひも湯よ枕。脇よりまき。椎の義よ
りもと。ともとすりすりするもの義もしくる。
えれ名のまくあさの根の。がすりとさえん方
の向後毛。のりて。此日を。ニ鷦の明神。ちを
坐とう。をと相模の國よへ。が。也。かく。
と山と下りよ。此事のとと菊川の。まゆく。ふ付
てよ。ぬこじぬ。まは小障家の園八州の守護文
武の名翁。相州の園家よ。を。が。義。能わう
人とととよや。おほひそり。義。はよと。うげ。と
きて。うかう。なう。食。地。人。かわ。た。おと。知。と

皆人わがうちやぬひ。一。翁。が。園の。義。能者。小田
承よ。ち。も。り。上。と。す。下。か。れ。が。諸。地。義。と。え
ま。ひ。い。き。か。り。と。上。世。よ。も。く。へ。ま。の。し。く。る
義。能。か。れ。と。仁。治。の。ひ。が。い。通。金。の。置。家。小。侍
の。義。能。と。う。み。り。あ。義。能。よ。活。の。か。
氣。能。活。を。う。者。一人。で。か。か。と。く。く。く。
よ。海。う。馬。の。奇。義。能。跳。鞠。舞。曲。吹。の。事。
き。く。是。も。ゆ。と。い。て。正。見。を。く。き。よ。と。も。せ。諸
人。義。能。を。う。小。活。一。義。能。と。す。づ。と。き。ゆ。作

出事と云ひ。且よ諸侯弓馬のりぬる事あ
ふと云ふ一藝と申す。感ぜてゆきゆす
上夷、猿下さる事多うりうちされば下の
達と云ふ事。何う。漢書も小文と云ひやう。わぶ
名次中越人也。帝舜臣ともうら文章と傳
も。アホの死法によ文よまくか者と云ふ
立と云ふ居する所の事と云う。勝するもの
か云ひおなよどろ。またいじやうハ繩よ勝れ。卒
人の死ふるとあくせ唐子はくのじて死の子細
きなり。日がゆくと云ひ。折々筆へ藝とす。

アキリヤカヅベト。御よ小田原よりまう藝者中
身ま乱不隱能の上。もととがうつす。保生
を小除家の妻と号。今妻八郎。彦觀世。金
剛友ば人の鼻よもゆき。さりとてくまゆめ。アキリ
ド号と。ばに度の後若。脇今。孟源七。保生。新盈
門。大前ハ三谷大益。仁助。感座三郎。四郎。小前ハ
義濃意系。又橘源右京門。今。孟源。擔助。太助。素
郎。新八。郎。又時井。重。義。義。助。三郎。松元
至右京門。鷺を支びて。小田原事。こぞり。而
後。其を返す。佐野ハ大前山室ハ小前。而後。其

勧善之入の三浦上二浦よりもろく。まゝ藝能と物の
兵父子は、武州八日あふるをく。通園と行ひて、の効
を結して、力とすく。一不へ事成とす。渓谷を
うひとす。へて、武州水門の里より居住。もね
き戸と極めて、神田の井の祭三年一小
力神事能とより。ひかの住居わざれよもよ
が余と疏か。じあの人の、おとせば。教人
ゆく。これかく名。天下、多双の藝能者あり。
極ひとへ世上ゆく。民さく。鉛す。其事。書畫
家。小作。する。とす。がむ。や。観世ハ公方
のまと号し。在戸。今ま。保生。金剛大丈
主が天下ふ名とす。の藝者。法國より
毎年關東へ下り。日が國の人乃ち。すり。戸
内都。そ。法國。と。名。と。天下。よ。ひ。ち。の。清
三方。うち。金剛。小袖。と。ね。版。一。諸大名。より。未。破
と。流。み。せ。り。され。ば。古。つ。へ。ゆ。る。事。と。ば。錦。堂。算。と
ど。侍女。よ。も。く。し。ま。り。又。漢。書。よ。と。氣。ま。め。て
古。へ。ゆ。く。す。り。錦。と。きて。軽。行。か。ず。と。せ
ま。れ。う。ら。う。が。か。ゆ。よ。び。人。て。海。國。の。財。馬。鷲。び。く。
ま。れ。う。ら。う。が。か。ゆ。よ。び。人。て。海。國。の。財。馬。鷲。び。く。

風氣木。わらとび。匂ひとくのりとのまく。若
四へゆり。あひ。じともや。後撰集。

紅葉もと。うらへゆす。御子の家はゆふ。
人やゑよ。んど。よみ。もねつ。湯をさてゆふと
づかせ文のふかべ。殆。東園自生。子細。まげ
万物生長。ひぐ。まふ。とかせり。かよ。あとや
しむひの方よ。之は。うり。是ふ。ふとて。天台山の
字通。玄惠。下。東北葉。西収。の。被。朝夕の纏。夏く。百姓
の。まきて。る。黎民の電。中。朝夕の纏。夏く。百姓
の。母。東西の葉。夢。仁政の基。心と。不也と
之里細。ひ。は。私。よ。や。も。も。あ。べ。天地開闢
より。ま。古。今。た。よ。閑。東。ハ。方。民。得。室。の。國。と。知。れ。ち
の。上。松。三。郎。景。虎。滅。モ。の。事
守。ト。き。荀。越。後。の。上。松。苏。京。禪。虎。へ。道。通。信。と。相
摸。小。隊。卒。氏。康。と。殺。ひ。殺。よ。和。睦。の。絆。か。し。卒。よ
禪。虎。う。た。か。も。お。も。く。や。氏。康。と。一。味。の。心。が
き。よ。よ。そ。氏。康。の。七。男。三。郎。歿。と。喪。子。よ。ふ
り。ま。せ。り。禪。虎。矣。子。か。死。が。ゆ。へ。也。正。よ。よ。そ。三
郎。歿。十七。が。ゆ。へ。永。祿。十二。年。の。ま。禪。後。へ
歿。山。家。も。か。死。ま。か。山。門。尉。山。中。民。効。と。捐

まへりきてろ。種虎もとをそんぬと。自他の豪
幸ちくゆうじくと。上甥の長尾義平次・義勝
妹と三郎義の妻とす。上叔三郎・義虎と改
名。家督と達志自山より居詰ひに佐・良康の元
龜元年十月三日より逝去。種虎の天正六年三
月十二日歿死也。謫居下の吉日山の守城。吉
虎の曲牆たり。義勝が弁ひの曲牆に亘
る壁もとをあ。越後の國とうむひとん
こと御策とくづとつて。吉虎びくつとと
義水もよもど。通経寺の家も小城母後ちと
き御城へとゆみて。門とくら二の曲牆と肩の下
かくくらと村けり。没砲と木かくらも。吉虎
きくらふとくらと金地。出城一。越後の矛中。お
敵の城より氣、こりり。小城丹波守の内守
ちの城より。主従とあひてをつるが通経城死
ふと。吉日山は然ひとすとや。忌をもせ
事。吉虎へ一時も。先よりして諸卒とあら光
利。おねしはと強き吉日山の人ねとすと
事。

軍多々く。ひどこをもり。東勝ぐ。圓ふうへ
そく沙法。タラ。海を東勝へれひく。小毛を
くつて。一揆皆一味と。東勝寄附。とめぐす。軍中
小毛。がて。舟後守。が。陣れ。も。うちの。うち。人
ねと。ま。と。も。と。ぬ。寄て。と。さ。と。ご。と。逃す。
ち。も。さ。か。ん。で。切。か。小城。舟後守。の。名。と。ぬ
き。る。大剛。の。荷。か。り。と。ん。た。む。り。い。の。外。と。が。だ
さ。と。と。不。敗。軍。と。舟。中。の。敵。と。ふ。が。り。あ。り
や。京虎。宮。の。ま。や。小城。よ。と。負。舟。中
小。て。く。と。日。小。毛。と。武。田。勝。船。が。京虎。の。味。奪

す。り。鐵。後。洋。橋。の。う。と。や。人。數。と。あ。う。勝。船
を。渡。も。か。陣。し。る。ゆ。京虎。も。ち。圓。勝。船。の。は
中。小。食。す。て。安。堵。り。ひ。と。か。と。ど。ひ。勝。船。の。亂
を。長。坂。兵。用。沿。道。や。が。は。く。も。敵。小。用。斐
國。中。施。島。も。あ。り。べ。と。さ。ひ。ば。敵。人。源。獄。よ。ふ
く。り。ぎ。わ。と。か。わ。と。武。田。の。象。敵。七。の。う。と。が
す。う。も。沿。り。經。虎。畜。交。中。東。都。へ。せ。ら。の。か。え
と。も。と。と。死。す。る。と。聲。な。り。お。金。と。お。出。と。お。没
長。南。小。千。島。等。の。軍。手。お。通。勝。船。へ。お。平。義。勝

歎後かうごからまを進行。繩虎のうこと讐罪しゆざい。ばあな。繩虎のうこを落
引立ひきだて見る。あるう付つけて。か。坐すわるの天章てんせうをもとべよ。し。波
札はさみと。ア。次つぎと。す。ば。坐すわるの天章てんせうをもとべよ。し。波
て。ふき。ど。ひ。勝かつれ。ア。君きみの織田信長おだのぶながと。ひ。文敵ぶんとう
と。わ。活はいて。ギ。く。ひ。即そくん。と。ナ。ミ。上じょう。歎後かうごと。わ
模も。一いっ。よ。と。ア。ハ。軍ぐん。川かわ。村むら。國くに。も。ア。も。や。う。や。ギ。よ
三さん郎ろう。後ごと。深ふか。歎後かうごと。和わ吹ふき。吹ふき。ト。と。も。さ。り。よ
い。ま。ら。ヤ。ア。ウ。村むら。く。勝かつれ。ハ。あ。事こと。お。尼あま。も。も。ひ。う。れ。る
主しゅ敵てき。よ。リ。好すき。二に郎ろうと。害いたずら。一いっ。路じ。ひ。歎後かうご。洋精えいせいの
安やす小國こく。安やす。安やす。人ひと敵てき。と。キ。と。ア。ヒ。先さき。波はを

土つち羽は沼ぬま田た。付つけ。民政みんこう。武たけ川かわ河かわ越こ。ま。で。急馬きゆくま。ま
ま。ゆ。三さん郎ろうと。勝かつれ。の。た。り。ア。深ふか。せ。ま。く。ト。途と
中なか。も。益ます。か。く。引ひき。と。こ。活は。ま。れ。ば。く。く。か。ん。人
す。て。急馬きゆくま。の。減へだ。ひ。繩虎のうこ。と。の。と。も。逃のが
ま。よ。と。也。と。仇敵きゆうてき。と。あ。る。よ。繩虎のうこ。冥子めいし。よ
少すくない。物ものの。急馬きゆくま。と。冥子めいし。よ。ふ。い。立たて。さ。れ。ど。も
と。れ。ぬ。日ひ。か。死死。と。あ。く。も。民政みんこう。の。信玄しんげん。章しやう。一いっ
鍼はり後ご。と。も。く。く。小。か。く。の。急馬きゆくま。冥子めいし。ハ。初はじ。難ひじ。と。も。ト
と。冥子めいし。よ。り。い。ま。を。急馬きゆくま。冥子めいし。ま。で。ハ。も。

よれどもとふやが。家もの者よひか。家
永祿十二年より天正六年まで十年があよ
りの謀計たりと語る。或も先士やてそれへ
一生涯欲ふよぬ。ひ。子へ教とわくそひ。才冠
こ深摺もる事。いふへもとももをかくひき。
穢虎まで云か。とつた。京傷越後とみさ
汁茶ゑゑ。二郎と謀。そろへほりや。と又
輝虎まこと。治定よとそて。憲達。安内果
て。佛神のみくまと。うべ。がのどこの武略を
古。よもや。まど。末代。もと。もと。と。是を偏よ
少人の謀か。大人よ。がれ事也。かづり我國
あやしく。よき。隣國と。兵事。和平
なくして。仁義。よ。背ふ。そろそろ。まわりと。偏一。利
とう。を。幸も。と。つとも。せのゆび。さと。夢へ。と
う。計略。よ。ぎ。く。りん。を。移す。悪事。と。そ
移す。と。と。よ。神。ぬ。よ。換。わ。な。鬼。と。ふ。盡す
このじよ。す。と。薦盡す。と。し。ひ。と。力の。と。ざり。ひ。と
の。ぐれ。祈念。と。し。と。て。家の。運。と。祐。よ。乞。と
然則。公恩鬼都。身護。神。ぬ。と。れ。も。り。利
生。わ。り。と。れ。大。物。と。本。心。仁。義。と。も。と。う。慈。虎

敵もく。義とく。まことと力うて。業敷
と。をそくべき事せどんり。

○東海ゆく。奥見ぬ事と事。村人奥の事
見しをと。相模。安房。上総。下総。良益は又ケも
の中よ。大なり入海わり。諸國の海と曰ふ。大奥な
ば入海。下総。安房と初めあつまつとつた。関東
の海主。丸幸とすと。儀色の奥と小網約を
すまして。丸幸也。近所よと。武門に戸紫昌少。西
園の漁主。とくと。園東へ來り。ば奥と曰ふ。称
がよよ幸あれと。地獄ありと。又網を作り。あるの

あのも。ふにてて。ねねの石と二つと付。先と千
貫石と名付。縄と二筋付。長さ三尺。幅二寸。す
り本と。すと。名付と。大總の五。千と二千。付
あひ事本と。本與の用。ひかと。耳。耳。一禮
ふ。水み交へば。七禮より。大。海へ漕。と。網と。下
ぬ方へ三禮。引。引。引。大總と。引。一禮。ハ。こ。ら。母。さ
名付。網が。よろしく。左方の總。ハ。引。も。る。ば。總の内
小。ち。る。大。奥。小。奥。一。つ。も。れ。り。事。ナ。海底。の。う。
う。内。色。か。う。と。く。多。引。よ。ね。又。被。底。う。わ。貞。ナ
う。ん。う。網。の。ド。と。お。と。り。と。も。あ。よ。す。され

ふ纏然と坐り。船内は網と海でもう。大網と引立
て。舟の角より火船車と仕合ふ。もとと赤て。緑と引
ひき。船三尺底あり。ひろくの貝たと魚也。ふ
りて引をも天に用脚。國東そりも安
もせん。海底の大奥御座の貝と。ぬる。を殺す
穴開をゆく。波の上移の上よせ。奥貝たとへ
ぬとよど。事よざり。ねんがほやうそ初奥
初見のゆ法す。よやせ。今年來ば。ゆく
わこうと。ぬく。今ハ十力也一つもむ
す。教書汚池よへどん。大奥故邊あげてくよ。

か。ビト。孟子の云々。秦也。も上淮南子。流と
まにて。それどもそんべぬ年。小奥ナリ。とつ
あも。がひゆく。うそそそ。の奥の中
す。ねか。嘲謔。こそ。床。うれ。玉葉集。よ
金。く。舟。す。小。鰐。け。ヒ。タ。金。の。干。海。の。浦
う。塗。の。袖。り。る。こ。爲。家。の。詠。せ。り。ね。又
巻。く。も。と。こう。の。浦。の。櫛。嘲。わ。ぬ。歌。と
ふ。う。や。引。ら。ん。と。よ。め。り。櫛。嘲。と。名。付。ま。よ
見。し。鰐。と。秋。の。季。ふ。も。と。も。じ。し。
か。よ。縣。島。の。海。年。夏。よ。と。西。海。も。り。縣。

ある。伊豆。相模。斐房の浦よりよる。初戦
 競争也。天文六年の夏。小田原浦をく。河原
 にまく。うじび。船とく。じとう。小藤氏總ゆる
 小舟より。海のあひがとく見れ。所事の
 船。盡酒。小舟。一船。舟へとび
 へまきり。氏總在役。よだげり。勝負。よろ
 とと。船。なまめかすも。歸。酒肴。即。朝。之。ま
 ら。船。よもす。六七月。上旬。上。松。酒。肴。即。朝。之。ま
 列。へ。収。向。の。下。若。見。る。氏。總。出。陣。同。十。月。の
 祀。そ。そ。よ。氏。總。討。篤。て。武。列。と。治。め。篤。ひ。ぬ
 え。ひ。空。方。よ。敵。多く。毎。日。歎。ひ。あ。ん。事。な。ず。氏
 總。竟。競。船。一。役。件。の。船。ハ。勝。負。よ。う。い。う。と。ど。
 て。そ。や。一。空。よ。ま。交。一。諸。侍。歌。陽。門。山。の。酒。肴
 せ。の。船。と。そ。の。そ。と。用。ひ。あ。ひ。ぬ。船。ハ。味。よ。か
 も。も。さ。く。地。下。の。者。そ。く。そ。も。や。死。を。目。小。も。見
 路。そ。ど。そ。上。船。と。そ。被。の。ひ。そ。死。日。く。や。く
 て。不。幸。り。こ。そ。そ。殺。殺。か。と。く。小。名。と。も。ゆ。宿。せ。む。そ。
 ち。塗。駆。と。ぬ。て。の。邊。引。か。す。て。底。よ。と。く。不。よ。ば
 貞。肉。す。れ。れ。肉。す。く。虫。り。す。く。そ。虫。み。づ
 肉。と。く。肉。と。く。蟲。て。殺。死。き。ま。り。そ。又

りとの肉とかの臭氣もおこさず拂てゆれば勇
伝法。上野下野の山岡の商人おれ賣買も。ば
の國人夷族地事す。されば夷はると右音よ
れぬくとえすより。苏波の浦。苏井の浦。紀の浦
旅がり。び國の浦里の人。競夷族とあすれきり。
夜訓は本。よ。生魚の鮒鮓と。あれありよめく書
半。極々鹽肴よ。熟の白干。競の黑酢と記
せり。也。御の事も。も。勞來す。極との而
代よ。也。競ハ鮓。ノリ。も。滋味よ。そり。そり。そり。
皆人夷族也。下力民也。も。や。人の時も時代よ

よもうらると。暮くまちで。是が一季と。わく。暮
奥之國東海。よ。ひ。を。ぞ。も。う。じ。そ。も。よ。お
り。ひ。よ。お。ま。世。お。海。よ。生。奥。生。貝。よ。う
じ。を。國。お。お。お。る。海。奥。陸。貝。と。こ。そ。く。も。ゆ
された。門。奥。の。よ。ふ。う。つ。し。若。競。初。競。と。皆
人。夷。族。一。族。よ。國。奥。よ。水。仰。競。ハ。玉。川。競。を
さね川よ。より。達。ア。元。年。十。月。二。日。水。ね。上
海。の。國。か。を。江。の。國。義。門。の。富。よ。ど。い。て。水。東
三。節。盛。總。小。刀。と。競。の。そ。り。よ。お。そ。く。お。さ
子。息。小。童。と。り。水。浦。よ。遠。り。お。そ。く。下。て。ム

只今是とより。食りやじのあのかよ氣味
やづらんか。やくきこしらへさうとまくは
みれ自む。トキアハ。おまよの自筆とぬれて、
おえをもみのふけりむとてやつとの。どうか
くたゆる。か。と教訓を。ゆ。教訓みへ
寄の上。と。の名ふと。めりすく。ま
ほひと。勧撰。おねぐへらまつて。わなく
書。か。と。と。まに。名の。樹。と。まに
ひく後拾遺。

内岐君ゆとの。を。や。と。ほ。く。し。名の。樹

がタびの。教。參。河。二村山。と。續古
今集。

と。を。り。と。と。と。が。上の。白。あ。と。と。と。よ
か。と。二。村。の。山。ば。二。首。の。あ。大。わ。教。訓。と。記。せ。り。
糊。と。年。初。難。一。嘆。の。黄。金。手。あ。六。十。あ。の。あ
ま。の。し。る。見。も。大。海。の。生。真。か。紀。が。西。國
カ。海。が。こ。き。關。東。万。民。の。と。さ。り。ひ。也。と。我
の。裏。と。と。く。の。眞。經。教。の。組。と。モ。り。は。事。の。海。と。り。て。人。天
の。裏。と。と。く。の。眞。經。教。の。組。と。モ。り。は。事。の。海。と。り。て。人。天

鬼の群れとやらひの網も敵の弓がほら
あり。今世にがく網も。海中のうちも、手で
も獲あらと事。が道のりをさるわざり。手のさ
えが捕と云事。ゑべひらきもせもし。夫のさに
お。網と骨ともとひらきも。僕は得どり事も漏
落。お。あととも網せど。やまとたぬきと。村は
こまこまとひの網とくして真とれた。人網と
きて。さりて。かづりぬりと。まき。あまふ。
やまととひの網。かづりぬりと。まき。あまふ。
をねらひ。宿もとねり。晴れれり。あまふ。

ばふと廣き網也。眞もの。れもと云ふ。あらよつま
矢も。れり。も。せ。と家被。れ。り
ひ。或人。ひ。の。き。り。そ。う。池。あ。よ。ヒ。り。眞。と。れ
大海。それちる。少。長者。と。歌。ら。ら。歌。歌。歌。
活。か。あ。ち。り。た。食。と。歌。し。る。大。山。り。と。よ
し。本。草。網。目。よ。こ。く。人。眞。わ。り。が。ち。人。よ
て。腹。よ。足。わ。り。生き。の。よ。海。山。河。よ。わ。り。
眞。人の。網。よ。ゆ。か。人。よ。そ。れ。く。く。の。と。き。
佛。の。糸。の。糸。教。と。事。十。恩。又。逢。の。よ。ど。り。よ。
ま。め。う。の。古。奇。よ。

ひうべに定め難とじとづん鑑
志りさへ組の目とよどみたりとそぞくるを大
教はまに義よねとへりとつりね又も人やされ
くらひりみちみく半蔵の海浦へ入莫死てあが
きしも事なよとづり文治又年を
この度の入莫がれしもくわやしれことかくと
毛と見るがれし年秋衡子息もとぐ
く滅せよ。又建保元年の秋扶國の浦へ入莫
かれりよびとづり通金後へほをとじ矣と。し
をつるむをほくがくこのひととりふ付よ

内術移り同。年又月二日和田義盛入。くわ
里達仁三年八月津輕の浦へ入莫がれしも。將
軍実朝云。恩詔師よ害せられ活ひぬ。文治元年
三月十一日津輕の浦へ入莫がれしも。注を
も。是ふとて。ハ憤えよとて。ゆれ移り同。
六月又日。三浦參村が合教わり。同二年の秋を
この度の入莫がれしも。札すわり。まほ通
金のうちんいふ際た近の監時教也。ばくと
ゆ。之を教不ほの義也と。せどうもみらむくの國。
三浦又即在東門尉盛明より。あくよより

奥州へ龜脚と坐の生あよと云ふ九月十日
稚の浦の人莫がれすよもと金をもてて海に渡る
P。ちりにて不老の事。地下人くく。P。上ぶる
くくとP。ば夷不候。子る。よも。お軍家諸ち
諸社(市村活)の事あり。眞の中の人莫る事。お
主海人の教主。よもだりとよされ

小倅又代記卷七終

110X
231
10